

第39回日本内視鏡外科学会総会

ミニオーラル 40 / 食道 悪性

【司会】

細田 桂 (湘南鎌倉総合病院)

2026/09/03 16:10～17:00 MO-2 展示ホール 1F BC

【MO40-6】 16:10～17:00
胸腔鏡下食道切除術におけるICG蛍光ガーゼの応用

【筆頭】広本 昌裕 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)

【共同】

- 山下 剛史 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門／昭和医科大学病院食道がんセンター)
- 田代 良彦 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
- 斎藤 祥 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
- 茂木 健太郎 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)
- 有吉 朋文 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門／昭和医科大学病院食道がんセンター)
- 五藤 哲 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門／昭和医科大学病院食道がんセンター)
- 安永 秀計 (京都工芸繊維大学繊維学系)
- 安藤 慎治 (東京科学大学物質理工学院)
- 青木 武士 (昭和医科大学医学部外科学講座消化器一般外科学部門)

【背景】

食道癌手術は縦隔内の重要臓器や神経に近接する高侵襲手術であり、正確な解剖認識と剥離境界の把握が安全性向上の鍵となる。当施設では、インドシアニングリーン（ICG）を用いたICG蛍光ガーゼを共同開発し、術中視覚的ガイダンスとして臨床応用している。

【方法】

食道癌に対する胸腔鏡操作および腹腔鏡操作を施行した2例において、ICG蛍光ガーゼを剥離操作部位に留置し、下縦隔および中縦隔の食道周囲剥離、ならびに腹腔内の胃脾間膜処理における剥離境界および重要解剖構造の視認性を評価した。

【結果】

ICG蛍光ガーゼにより、下縦隔では左側縦隔胸膜および左下肺間膜との境界、中縦隔では左下肺静脈との境界ならびに左迷走神経肺枝の走行、腹腔内操作では胃脾間膜処理における境界を確認することができた。ICGに関連する有害事象は認めなかった。

【結語】

ICG蛍光ガーゼの使用により、剥離境界および重要解剖構造の視認が可能となり、胸腔鏡下食道切除術において有用な術中視覚的ガイダンスが得られた。本手技は複雑な手術野における操作の安全性向上に寄与する可能性があり、外科手術教育においても解剖理解を支援するツールとしての有用性が示唆された。今後は症例を蓄積し、さらなる検討が必要である。